

第20回宇宙開発利用専門調査会での論点と対応(案)

平成16年 4月22日
総合科学技術会議事務局

第20回宇宙開発利用専門調査会(宇宙輸送システムのあり方)における主な論点とその対応案を表1にまとめる。

表1 主な論点と対応等(その1)

No	主な論点	対応等
1	<p>基幹ロケットのあり方の議論。 (日本で3種類のロケットが開発されていることについて、その需要や技術的ビジョンからの必要性の議論を含む。)</p> <p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・打上げ失敗時の対応等、危機管理の考え方を整理することが必要。 ・今後は、打上げ能力、コストを犠牲にしても、信頼性向上に努めるべき。 ・輸送系に割り当てられた資源を、できる限りH-Aの信頼性向上のために集中すべき。 ・先端的な研究だけではなく、現実に打上げるという視点に基づいた研究が必要。 ・比較的安い現在の開発費で安全性等に十分対応が取れているか等、適正な開発費についての検討が必要。 ・衛星市場の動向を見た場合、2トン級より軽量の方向に向いており、H-Aクラスの取組みだけでよいか検討することが必要。 ・射場整備のあり方が、現状のままで良いか検討することが必要。 ・H-A能力向上型の必要性の確認が必要。 ・M-Vについて、安定しており、科学衛星用として能力の十分なロケットの今後の運用計画がないことは、疑問。 ・GXロケットについて、計画、官民分担、運用計画、安全性確保の保証について、具体性が必要。 	<p>課題のひとつとして、調査会で議論。</p>

表1 主な論点と対応等(その2)

No	主な論点	対応等
2	<p>固体ロケット技術の維持に関する議論。</p> <p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・機微情報が含まれていても、外為法などで担保しているので、民間移管していくことの可能性を検討すべき。 ・固体技術の維持が重要ならば、それを明確に説明することが必要。 ・多くの技術の蓄積であり、固体の特性を十分考慮した議論が必要。 ・M - のみならず、H - Aの固体ロケットブースタを含めて検討することが必要。 ・コスト低減として、打上げ機会の増大手段(民間利用、GXロケット1段への適用等)を検討することが必要。 	<p>課題のひとつとして、調査会で議論。</p>
3	<p>国際協調を考える場合の技術情報開示に関する議論。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・打上げ安全性審査等に必要な技術情報開示が、海外製品の場合十分あるか。 ・我が国の技術を海外に輸出する際の開示基準を設けているか。 	<p>現状の対応について、報告。</p>
4	<p>打上げ審査について、民間移管した場合も含め、詳細審査内容のガイドラインを作る必要がある。</p>	<p>実施機関で対応。</p>
5	<p>H- A能力増強型やGXロケットの開発体制における官民役割分担について、プロジェクト意義まで含めた更なる明確化が必要。</p>	<p>実施機関で対応。</p>
6	<p>宇宙に関する施策は、実現に時間がかかるため、歴史的背景について、配慮する必要がある。</p>	<p>コメント</p>
7	<p>基盤技術について、長期的戦略に基づいて、取り組む必要がある。</p>	<p>コメント</p>